

子どもの安全を守るために



昨年、広島県や栃木県で児童が下校時に殺害されるという痛ましい事件が相次いで起こりました。

また、市内でも不審者情報がいくつか寄せられていることから、昨年12月、八代地区防犯協会が「子供の安全を守る緊急対策会議」を開催しました。これを受けて、教育委員会では、「八代市通学路安全対策会議」を設置し、学校や家庭、行政、地域が一体となって、子どもたちの安全確保に努めています。

ここでは、子どもたちの安全を守る主な取り組みやポイントをお知らせします。

学校などでは

▽通学路の再点検

教職員や保護者が、通学路で人通りの少ないところや人目に付かないところなどを、児童や生徒、住民から聞き取り、実際に歩きながら通学路の点検や見直しを行っています。

▽通学路安全マップ作成

児童や生徒自身が作成した「通学路安全マップ」を校内に掲示し、活用しています。

このほか、児童や生徒一人ひとりの登下校の状況を的確に把握し、集団登下校を行うなど、子どもができるだけ

ゆっぴー安心メールで防犯情報を！

熊本県警察では、不審者の出没など防犯に繋がる情報を携帯電話のメールでお知らせする「ゆっぴー安心メール」を配信しています。登録は無料です。

【登録方法】

k110@123123.tvへ空メールを送信届いたメールに書いてあるURLをクリック
会員登録が表示されるので画面に従い登録
ドメインを設定している場合、k110@123123.tvを受信できるようにしてください。

問合せ

熊本県警街頭犯罪対策室

096-381-0110



一人にならないよう努めています。また、防犯ブザーの使い方や緊急時の避難場所についても指導しています。

行政や地域では

各校区に保護者や地域住民による自主防犯組織が立ち上げられ、子どもの登下校時に合わせ、防犯パトロールが盛んに行われています。八代市内の郵便局による郵便集配時の見回り協力や、いざというときに子どもが避難する「子どもを守る家」を設けるなどの取り組みが進められています。また、不審者情報などが携帯電話のメールで届く「ゆっぴー安心メール」のサービスも活用されています。

家庭では

子どもは「地域の子ども」として、地域で見守って育むことが重要です。登下校時に合わせて散歩してみたり、遅くまで遊んでいる子どもには、早く家に帰るよう声をかけるなど、ちょっとした大人たちの意識と行動が、子どもたちの安全に繋がります。

「いつてきます」「いつてらっしゃい」。この一声から、子どもとのコミュニケーションが生まれます。また、外にでるときは、危ないところには近づかない、防犯ブザーを持ち歩くなど、「自分で守る力」を身に付けるよう促すことも大切です。

児童たちが作る
通学路マップ
～種山小～



種山小学校4年生
前田幸恵さん(左)
澤田夏希さん(右)

種山小学校では、授業で児童全員がパソコンを使い、自分の通学路のマップを作成しています。パソコンで絵を描くことは初めてでしたが、友達と一緒にということもあり、楽しく作ることができました。一番難しかったのは、マップの基になる道路線を描くこと。それができれば、通学路での目印や足場の悪い所、怖い犬がいる場所など、気を

付けて歩く場所に色々書き込んで、自分だけのオリジナルマップが完成。出来上がったマップは、教室に掲示してあります。



◀種山小学校では、校区全区に危険箇所を表示している安全マップを、児童たちの目に付く場所に掲示

危険箇所の情報は
地域の協力から
～代陽小～



通学路での危険な場所や不審者情報が以前から学校に寄せられていたため、通学路の危険箇所マップは、すでに作成していました。

しかし、子どもを巻き込んだ犯罪が全国的に発生したことから、代陽小学校では昨年12月、PTAや各地区員長などに通学路の危険箇所について調査を依頼し、とりまとめた情報を基に、教員が現場に出向き写真を撮ったり、詳しい状況を記録するなど、さらに分かりやすいマップを作ることができました。これらは、職員室や校長室などに掲示しています。

また、子どもたちの通学時には、保護者や地域の方の見守りなどの協力もあり、地区全体で防犯の意識は高まってきています。これからも、より一層、学校と地域が連携していくことが大切だと考えています。



代陽小学校
熊部 巧 校長



千丁校区でのパトロール

子どもの見守りを地域の方で！



昨年12月から鏡町を中心に巡回中の青パト



郵便集配員も見回り協力

市内各地で、地域住民による防犯や安全パトロール、郵便集配員によるパトロール、青パト巡回など、地域ぐるみでの防犯への取り組みも数多く実施されています。